

幼児の創作舞踊の実践 — 4 歳児の飛躍 —

飯 田 正 江

はじめに

今回は、本学紀要第9号「幼児の創作舞踊の実践—3歳児の可能性—」の続編として、4歳児の創作舞踊を考察するものである。

日本教育舞踊研究所出版の舞踊カリキラムには、4歳児の舞踊的発達段階を⁽¹⁾「4歳では知的発達の著しさが目だつが、さらに大きな特色は想像力の発達である。運動的にはかなり複雑な運動がこなせるようになり、日常動作が1人でできるようになる。社会性の発達は、友人との関係が深まり、⁽²⁾群としての運動ができるようになる。このことは、舞踊を集団で学習する条件がととのったことを示している。したがって、この時機に、適切な題材で豊かな想像力をはげまし、舞踊創作に導くことは⁽³⁾容易である。」とし、4歳児からとり上げている。すでに私は、紀要9号で、3歳児の創作舞踊は可能であると結論を出したが、今回は、3歳で創作舞踊を経験した幼児が、4歳児で表現したものをとりあげる。実践例を10あげ、3歳児と比較しながら、4歳児の舞踊表現の特徴を考察するものである。

実践

場所 上田市立豊殿保育園、神川第一保育園、塩尻保育園、神科第一保育園、上田女子短大附属幼稚園、聖マリア幼稚園

期間 1979年～1985年

以下の指導は、現場の保母が行い、それをその場で観察し、ノートや写真、ビデオに収録したものである。

実践10例には記してないが、実際には、導入で話し合う前に、即興⁽⁴⁾を行い心身を解放し創作に入る準備を行っている。

実践1 「かたつむり」

1985年 6月20日 神川第一保育園

かたつむりを皆で飼育する。手にのせたり、机の上をはわせたりして遊ぶ。絵に描く、粘土で作る。

導入

保母 きのうち皆で何をして遊んだっけ、かたつむりについて知っていることを手を上げて言って下さい。

幼児 角の中に目がある。黒い。小さい。アリンコみたい。お家の中に入ると見えなくなる。かたつむりのあごに口があった。かたつむりに穴があって、しまったり、あいたりしていた。窓のところにはわたたら、足がエレベーターみたいに動いていた。青い筋ができた。体に点々があった。かいがらにボツボツがある。

保母 どんな形をしていた？

幼児 全体に長い、おうちがうず巻になっている。

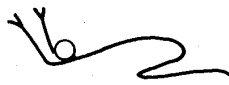
保母 どんな動き方？

幼児 はってる。ニョロニョロ、ヒョロヒョロ、へびと同じ、ノロノロ、ニユルニユル、チョコチョコ

展開



片手で角 }
" から } をつくり進む



角を指で



片手下はから
" 上は角



足を曲げ、からを表現し、
はう



向い合ってお家に入る



2人で角とカラを表現



手を顔の前
ゆっくり歩く



角を出したりひっこめたり
顔を時々上げる



実践2 「ロボット」

1984年 8月24日 神川第一保育園

家にあるロボットを持ってきて充分遊ぶ。

導入

保母 どんな形している？

幼児 四角，三角，長四角，足にタイヤがある。

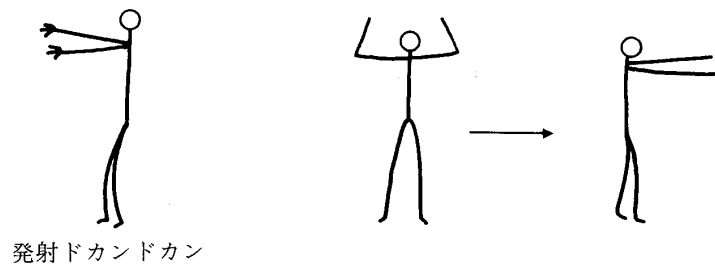
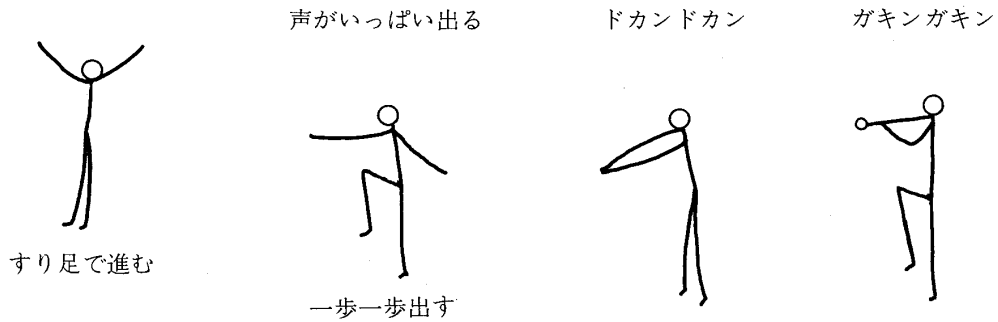
保母 何をするの？

幼児 かいじゅうをやっつける。働く。お腹からミサイルを出す。キックやパンチをする。
宇宙へユーホーとか飛行機に乗っていく。

保母 ロボットは人間と同じ？

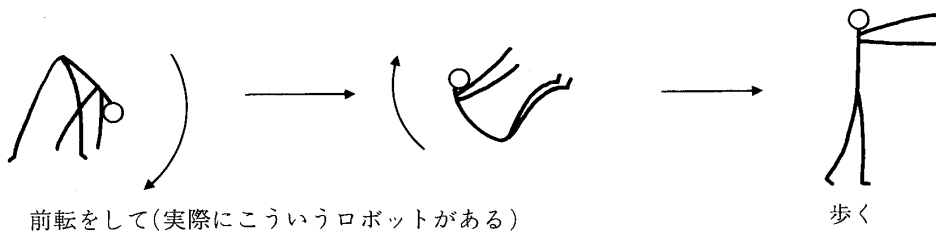
幼児 違う，頭が違う，手が違う，歩き方がまっすぐ歩く，ドシンドシンする。

展開



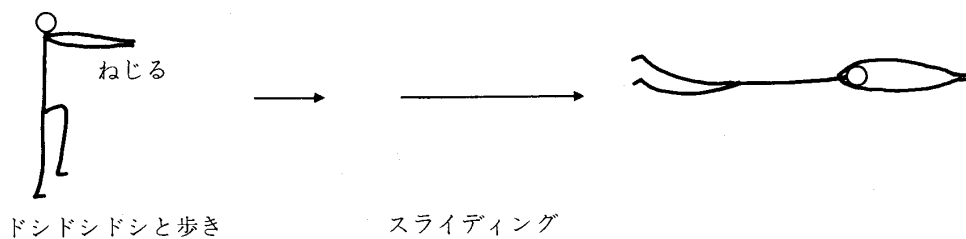
幼児は、ドリルロボット、ミサイルロボット、ドリルミサイルロボット等
口々に言いながらやっている

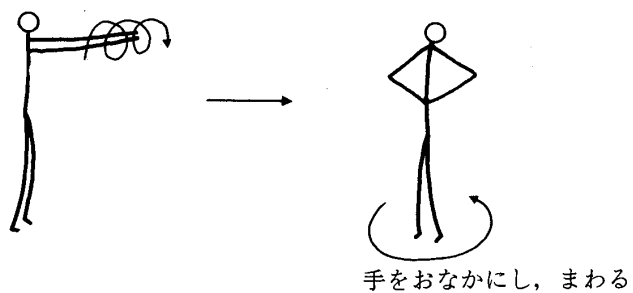
①



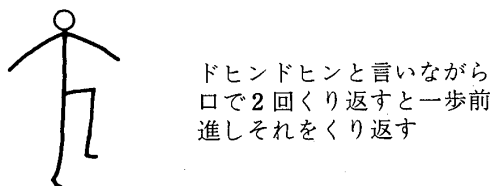
ドリルロボット

②



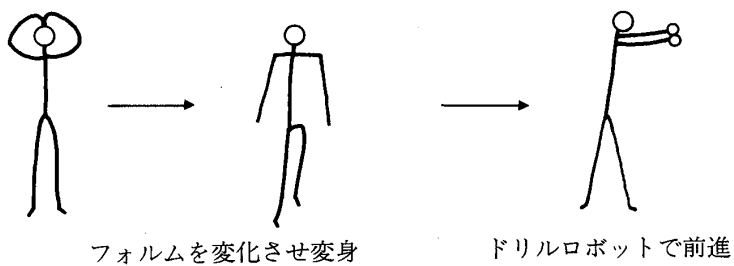


⑧

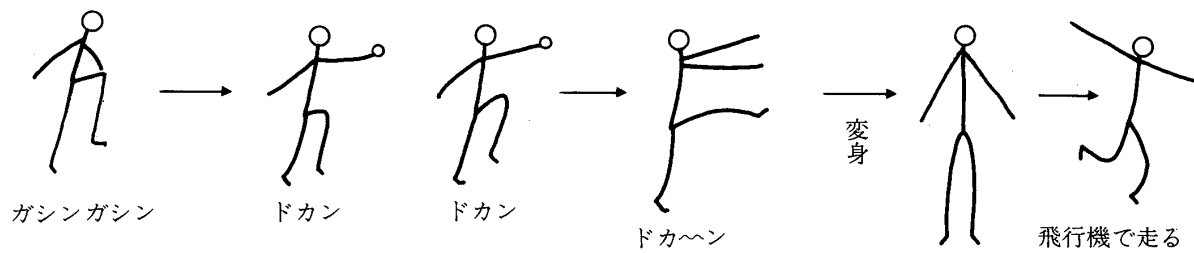


変身ロボット

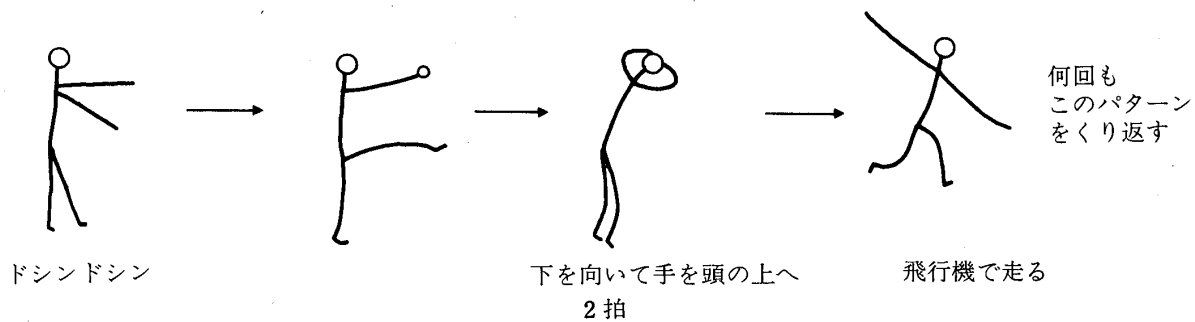
⑨



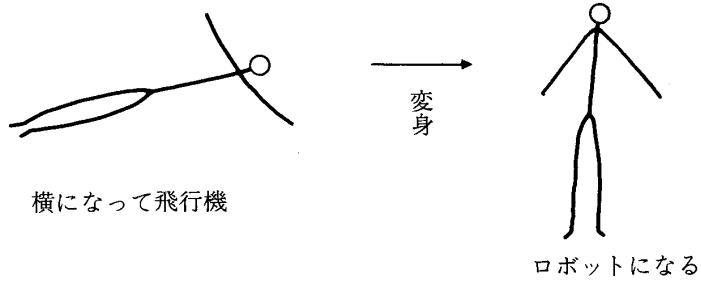
⑩



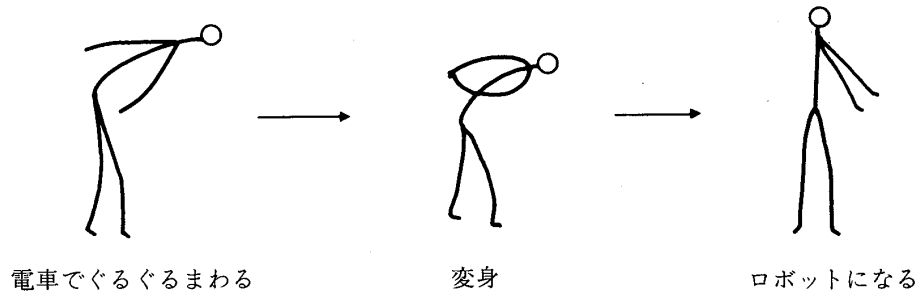
⑪



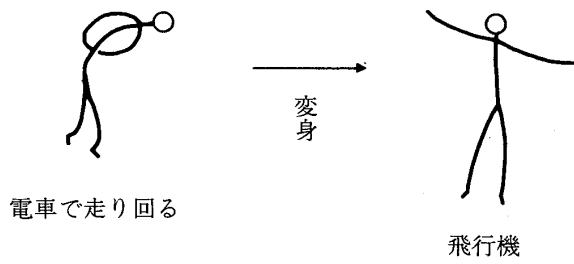
①



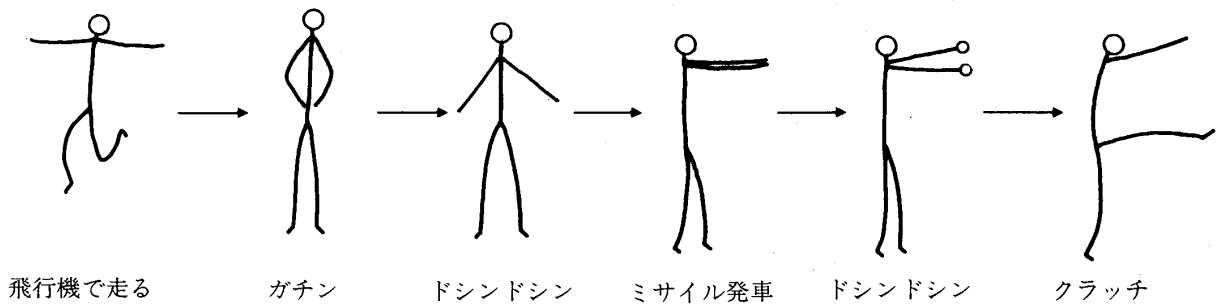
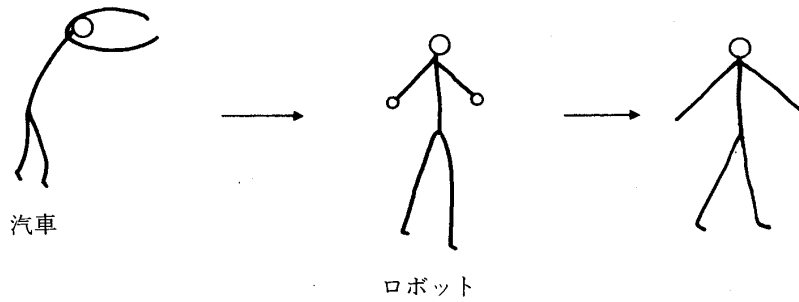
②

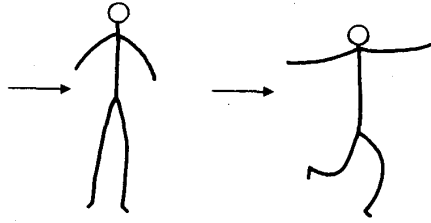


③



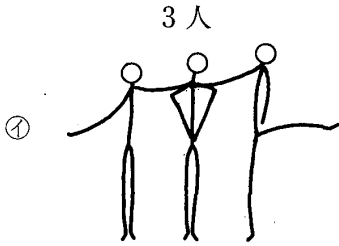
④





ドシンドシン

飛行機で走る



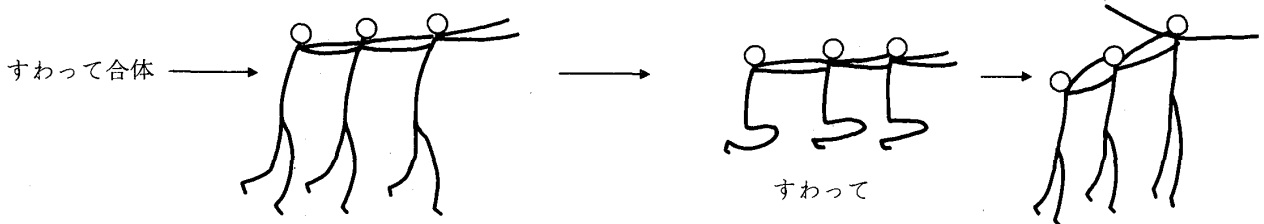
3人

はじめはそれぞれが別々のロボットで動き
ドカンドカン→ミサイル発進→合体
→チェンジ→ドカンドカン

口々に言いながら合体の時には左図のようになる

中央の子の手ミサイル

㊦ はじめそれぞれが別々のロボットで動き(ドカンドカンバキューン) →



すわって合体

電車で走る

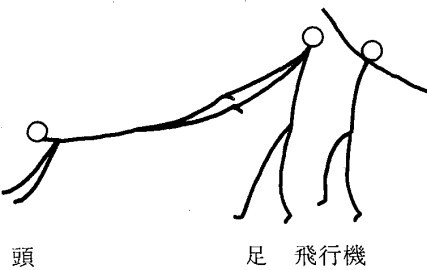
すわって

飛行機

㊧

それぞれのロボットで
動く

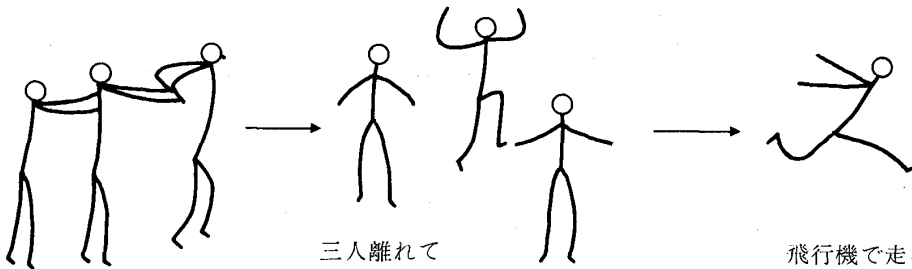
合体



頭

足 飛行機

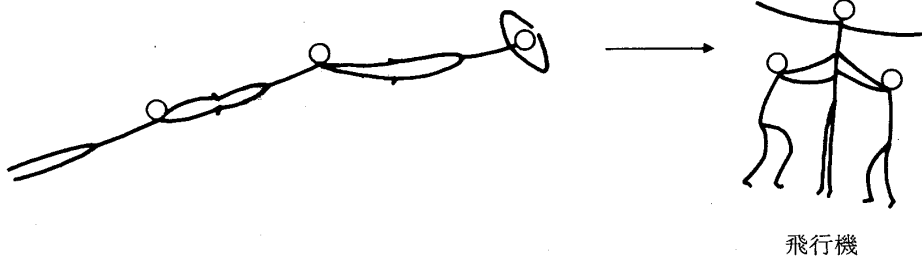
㊨



三人離れて

飛行機で走る

⑥



実践3 「プール」

1981年 8月26日 豊殿保育園

この季節園で一番力を入れ、又子供達の大好きな遊びであるプール遊びをとり上げる。

導入

保母 プールでおもしろかったことは何かな？

幼児 プールの中で目をあけて泳ぐこと。電車ごっこ、いも虫、二人でギッタンバッコン、手をつないで順番に顔を入れた。

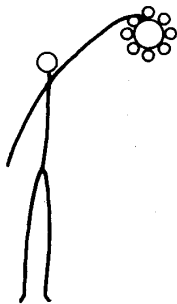
保母 プールに入る前は何をした？

幼児 シャワーをあびた。頭、顔、手を洗った。手で体を洗った。

展開



ジャージャーと言いながら頭、顔（上を向いて）体、足を洗う



保母がタンバリンでシャワーをやる。皆集まってきて「ちゃんと並ばないといけないんだよ」等言いながらシャワーへ入り、洗う様子を上手に表現する

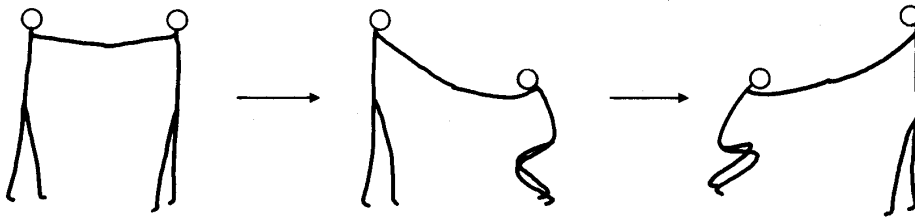
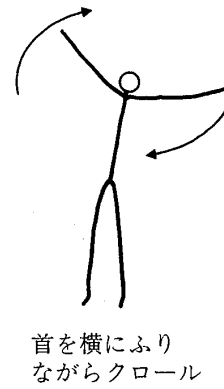
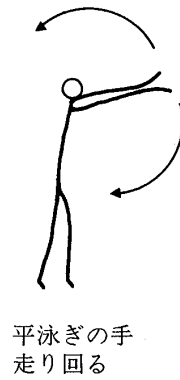
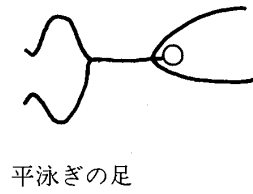
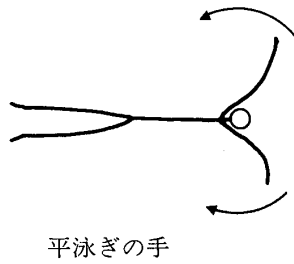
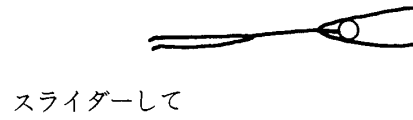
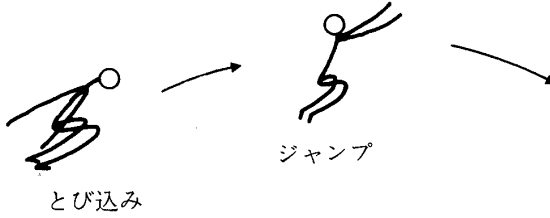


足をバタバタ

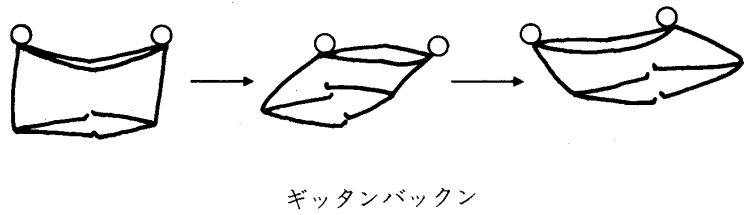
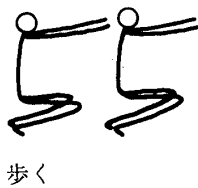


目を下につけもぐっている

幼児の創作舞踊の実践



交代で水の中に顔を入れる



実践4 「おみこし」

1983年 8月26日 神科第一保育園

皆で実際にかつぐことのできる大きさのおみこしを作り、遊ぶ。

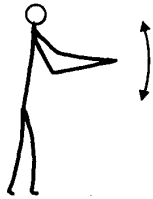
導入

おまつりの本を見る。

おみこしについて話し合う。

展開

おみこしをかつぎながら



歩きながら持ち上げたり
下げたりしながら1歩1歩
移動



横にスライド
しながら



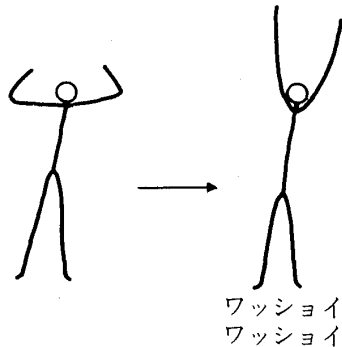
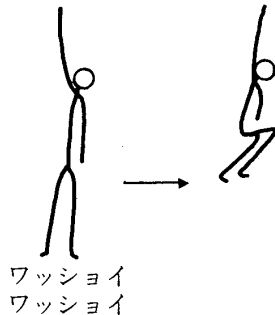
足をはねあげ
ながら踊るように



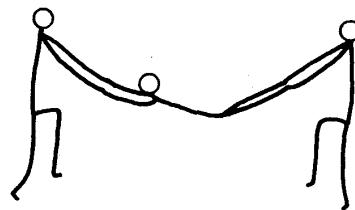
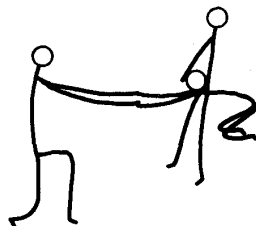
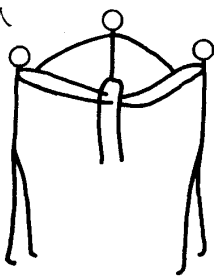
ホップしながら



ジャンプをくり返す



3人



ロ々に「ワッショイ、ワッショイ」と言いながら、それぞれに工夫している。

実践5 「とんぼ」

①1979年 8月28日 豊殿保育園

とんぼを取ったり、とんぼと遊んだりする。図鑑を見る。

導入 とんぼについて話し合う。

幼児の創作舞踊の実践



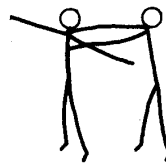
腕を横に広げそのまま
 // 上下しながら
 // 手の先だけ上下
 腕をぐるぐるまわしながら

足は { 歩く
 走る
 ギャロップ



足をバタバタさせタマゴを産むところ

2人



つながりとんぼ

②1982年 9月2日 上田女子短大附属幼稚園

導入 前述と同様。

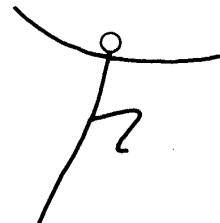


前述同様

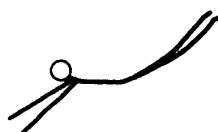
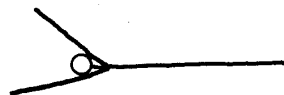
ゆっくり、速く



低く高く飛ぶ

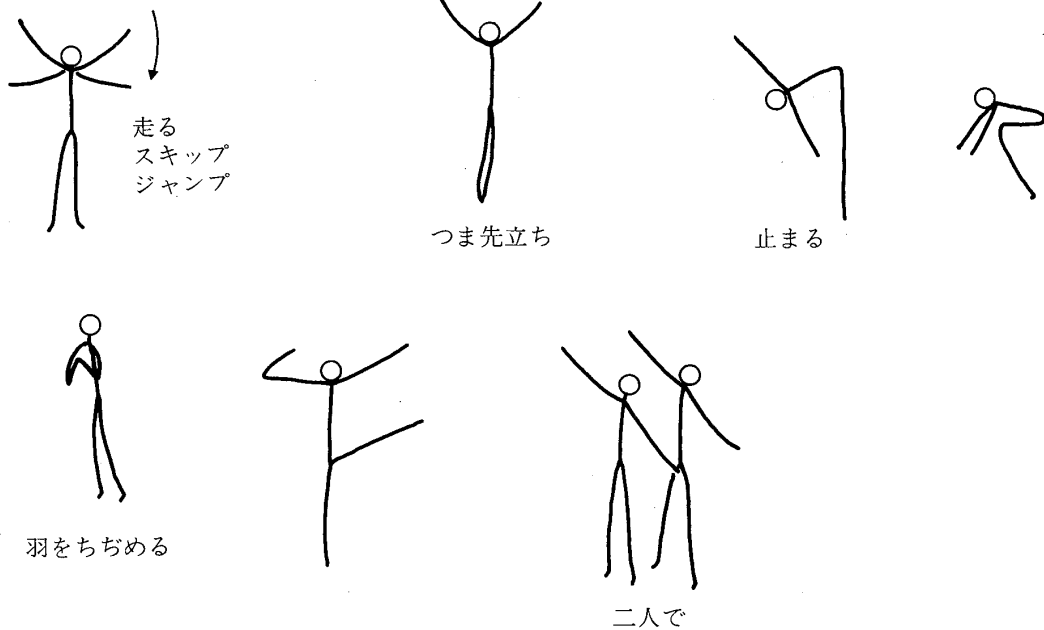


止まる



止まる時の姿勢を工夫した

③1982年 10月4日 聖マリア幼稚園



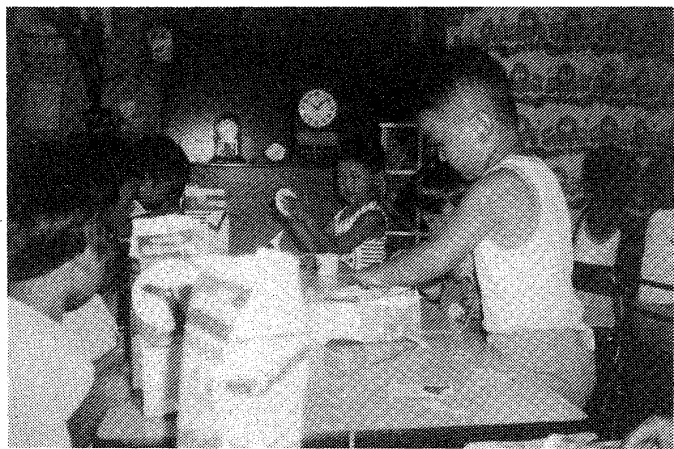
形は単純で、動きも単純であるが、幼児にとっては、身近にいる小動物で親しみやすい。
空間を広く使え、のびのびととんぼになれる。

実践6 「時計」

1982年 8月30日 豊殿保育園

イ. 色々な時計を観察する。

ロ. 牛乳のあき箱で時計を作る。



導入

保母 時計を作ったね。何の時計作ったの。

幼児 置き時計、柱時計、目覚し時計、腕時計、振り子の時計、うるさい時計。

保母 色々な物ついてたよね。

幼児 針、振り子、数字、針は太いのと細いの、長いのと短い。

保母 形は？

幼児 まるい、長四角

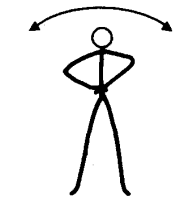
保母 音は？

幼児 カチカチ、カチコチカチコチ

幼児は、皆積極的に答え、かなり興味を持っている。

展開

振り子



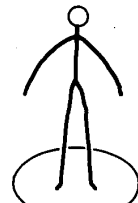
体を横にゆする



指を出し



腕を振る



まわる



足を振るに

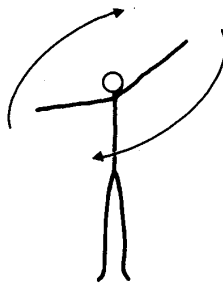


伏せて手を

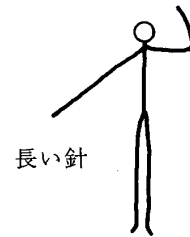
針



まわる



短い針



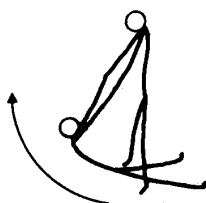
長い針

短針と長針の速さをかえてまわす。
上で手を重ねボンボンボンと12時を
打ったり3時を示す



指を1本出し針の先の感じを出す

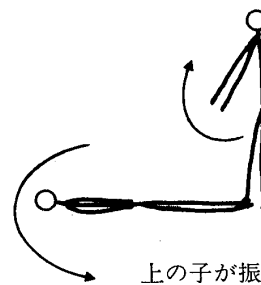
2人



上の子が下の子を
横にゆする



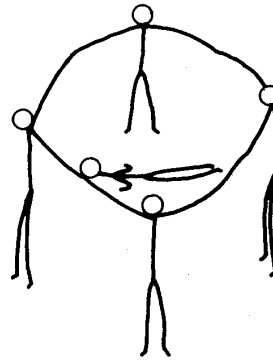
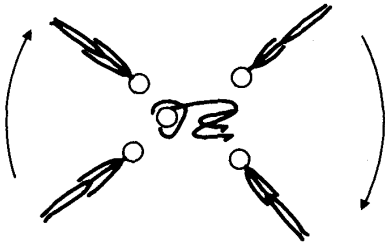
前の子が短針
後の子が長針



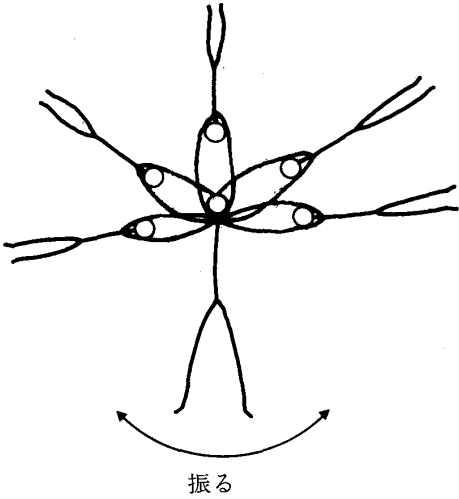
上の子が振り子
下の子が針

幼児の創作舞踊の実践

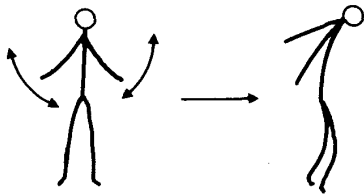
グループ



中の子がまわる
外の子が中心を
向いているグル
ープと外を向い
ているグルー
プの2通り



鳩時計

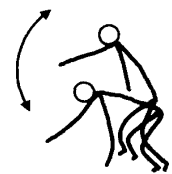


腕をハタハタ
させ

カッコーカッコーと
言いながら体を前へ
出す



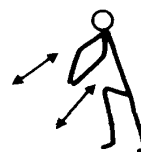
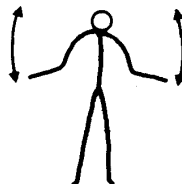
カッコーカッコーと
ジャンプしながら



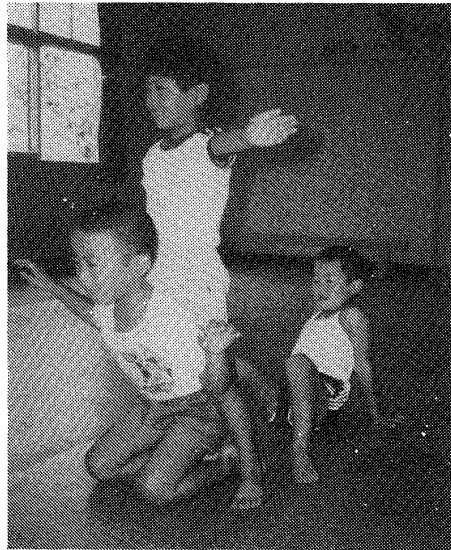
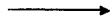
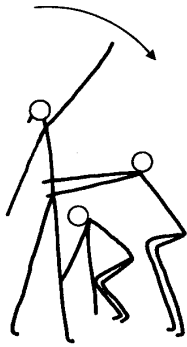
頭をこきざみに動かし
ながら上下させる



手を口ばしにして

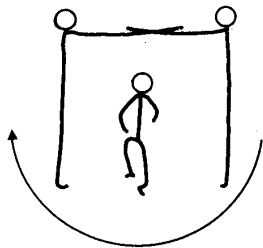


3人



カッコーと鳴いて出てきた

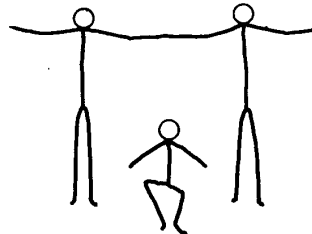
左、カッコー 立っているのは針
後はふたがあいたところ



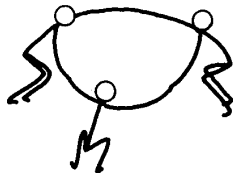
外側はまわる



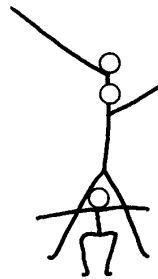
止まる



前へ鳩が出る



低い姿勢でまわり
カッコウの時ひとり立つ



カッコウで中から出る

カッコーと鳴いて
出る子供達は、本当
に楽しそうである

実践7 「ショベルカー」

1985年 8月30日 神川第一保育園

工事現場へショベルカーを見に行く。

導入

保母 この間ショベルカーを見に行ったね。何をしていた？

幼児 掘ってた。砂を掘ってた。ゆすっていたり、平にしていた。石を持っていた。砂をおしていた。ふるいみたいにした。小さい石がショベルにくっついているのをカシヤカシヤとふっていた。

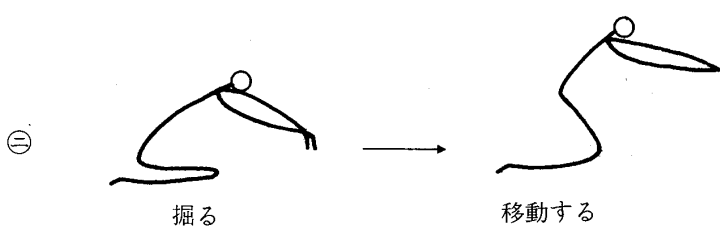
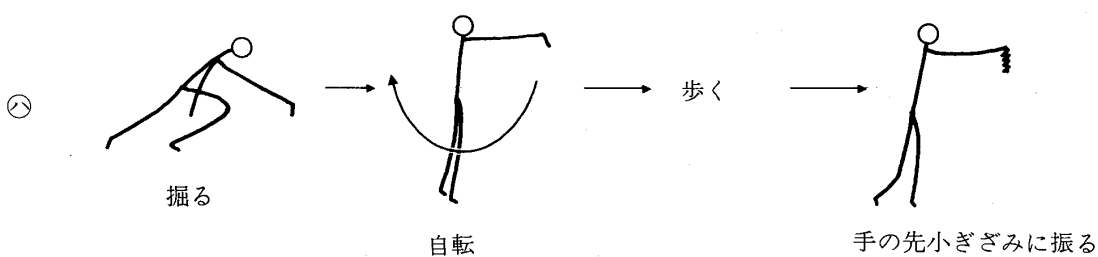
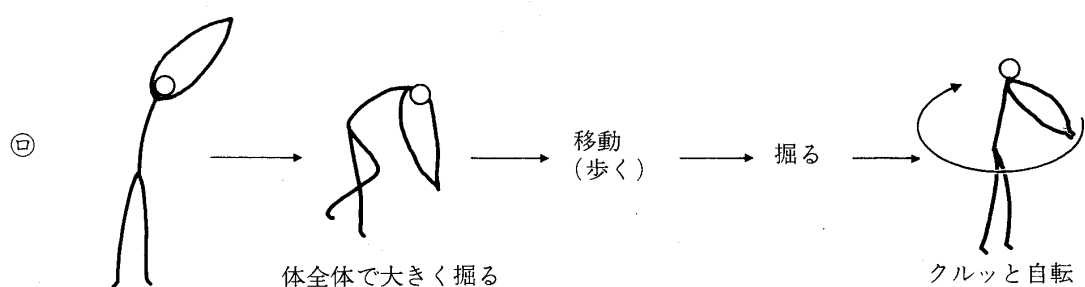
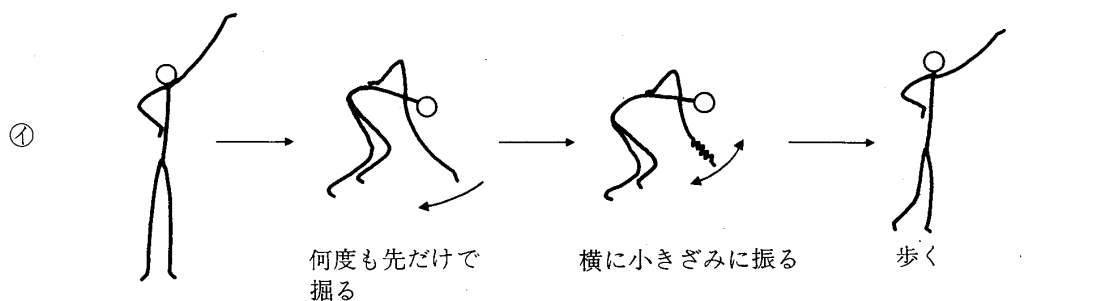
保母 形は？

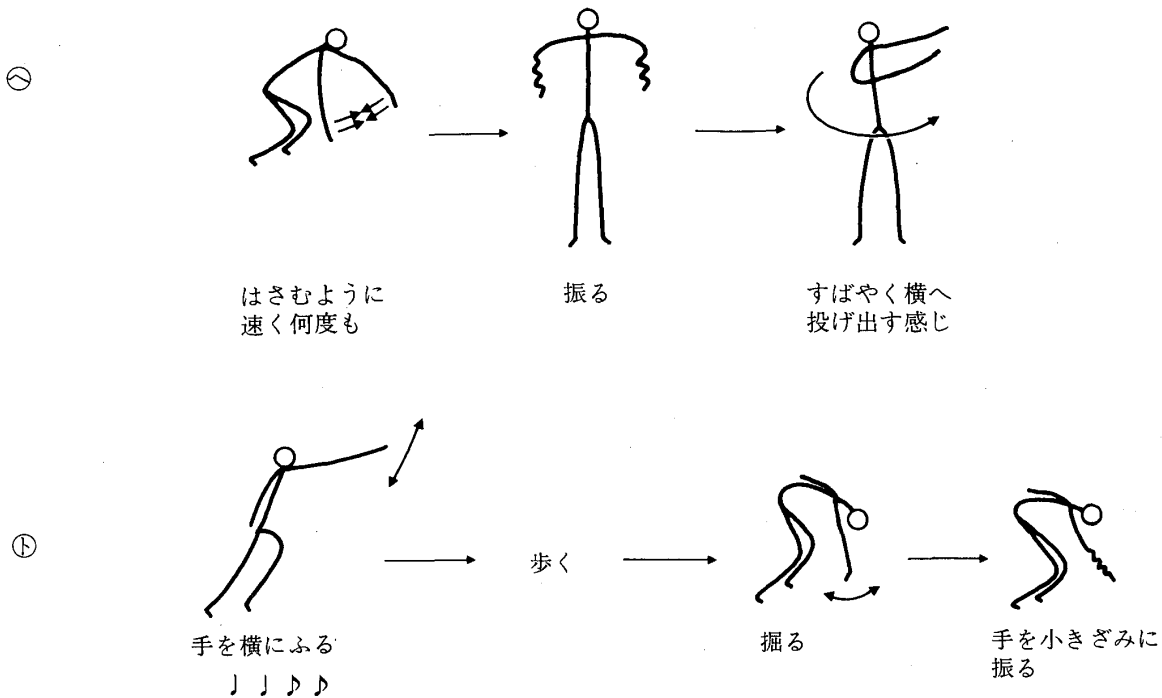
幼児 ツメが長い（その場で手でやってみせる。）

保母 どんな動きをした？

幼児 上に上げたり，下げたり，横に動いたりした。平にした。砂を持って違う方へやった。

展開





全体にショベルの形をとらえ、掘ったり、ショベルが横に振れる様子をよく工夫してとらえている。手の動きは、かなり複雑なりズムを創り出している。その後、移動したり、方向を変えたり、回転したりして、1フレーズとし、それを何度もくり返している。

実践8 「花火」

1985年 9月11日 塩尻保育園

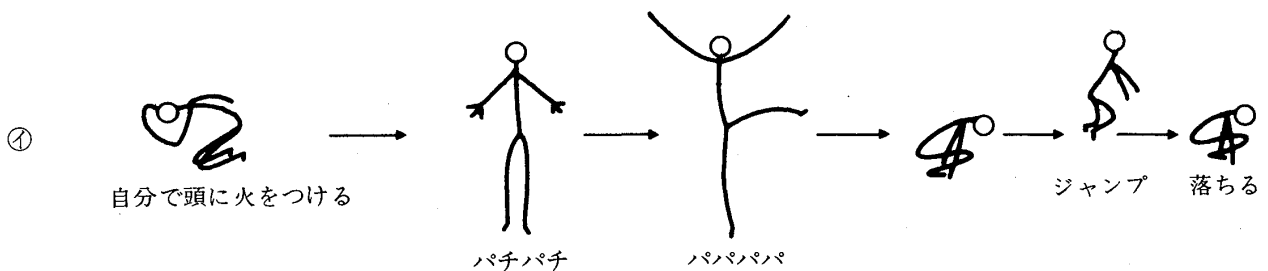
線香花火、へび花火を実際に見る。

導入

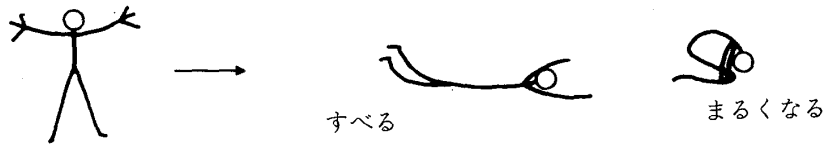
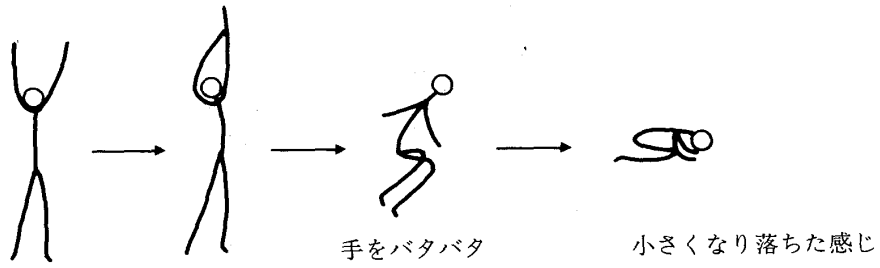
保母 線香花火を見たネ。

幼児 玉がまるくなった。豆になった、シューとなった。それでパチパチなった。最初パチパチはちょっとだったがだんだんいっぱい出た。それで終わった。だんだん小さくなって黒くなって落ちた。パチパチは横とか上とか下とかへ出ていた。パチパチは玉の色々なところから出ていた。

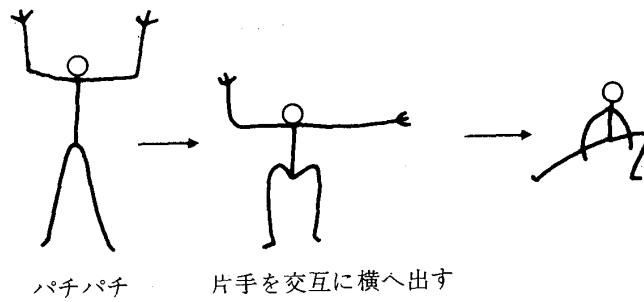
展開



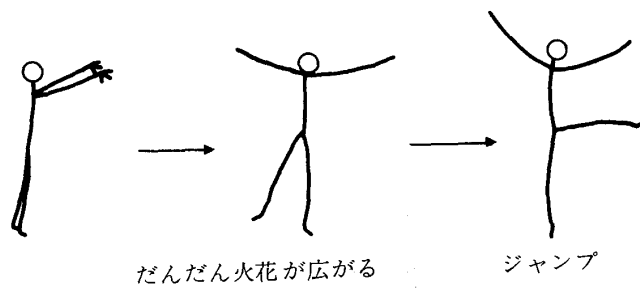
㊦



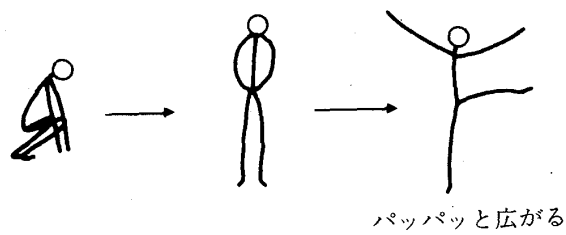
㊧



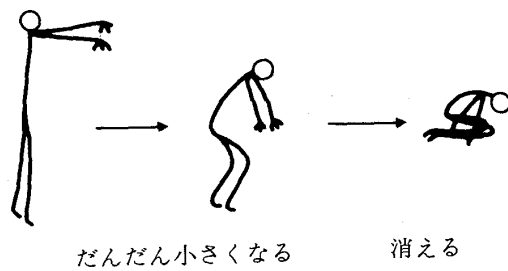
㊨



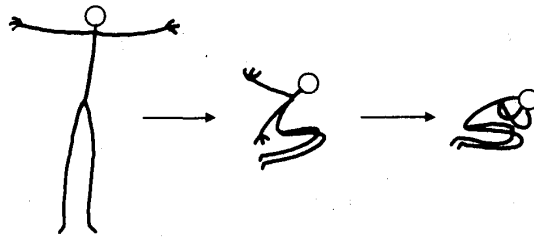
㊩



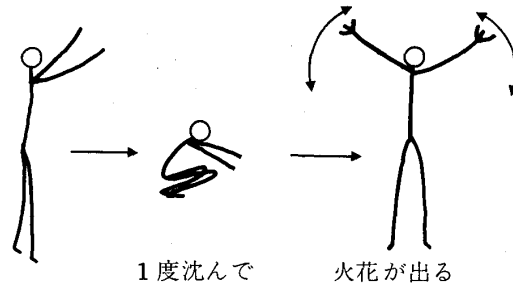
㊪



㊦



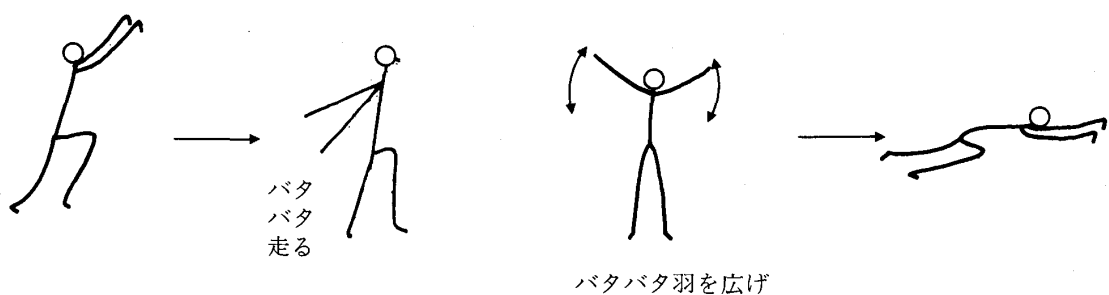
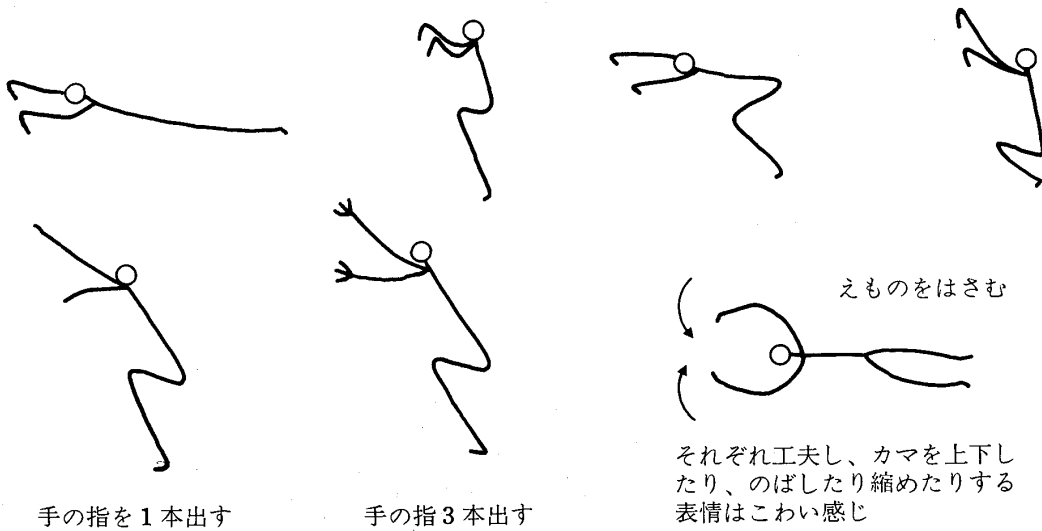
㊧

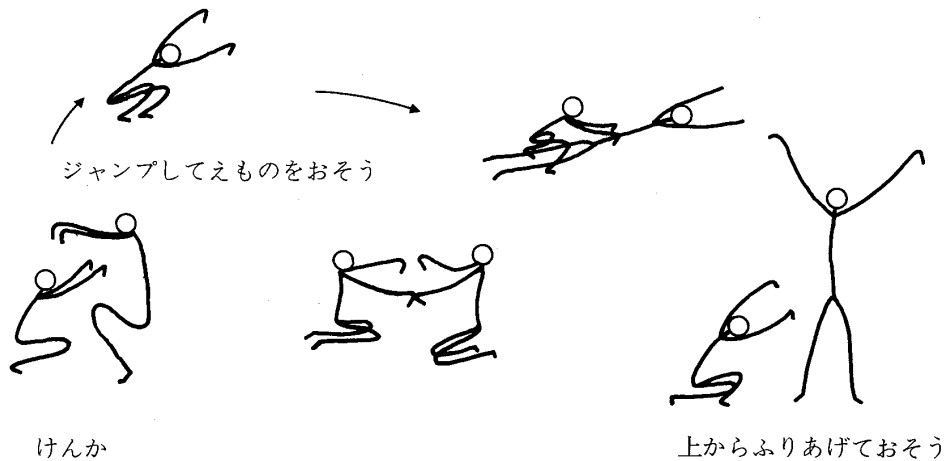


実践9 「かまきり」

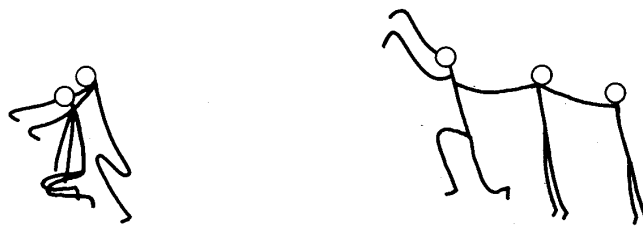
1982年 10月4日 聖マリア幼稚園

かまきりを飼育し、手にのせたりして充分遊ぶ。





けんかの表現は、口をあけてかじったり、上からおそいかかる様だったりし、とてもリアルで、やられた子が泣き出した。



実践10 「こま」

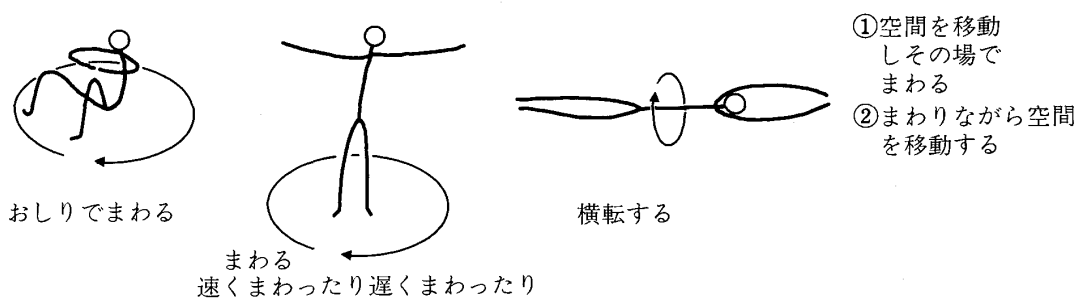
1984年 1月18日 塩尻保育園

お正月明けから、保育園ではこままわしが流行って、皆毎日やっている大好きな遊びである。

導入 こまについて話し合う

展開

保母 こまでもこままわししているところでもいいよ

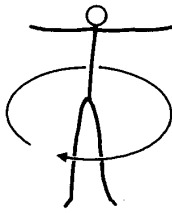


回転速度を変えたり高く、低くなったりしながら移動し、こまがよくまわっている。

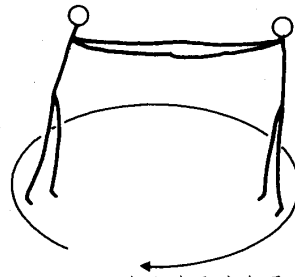
幼児の創作舞踊の実践



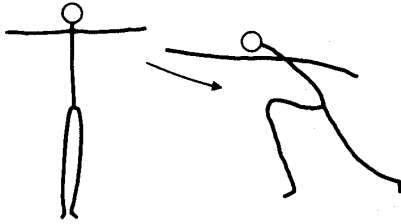
自分で巻く



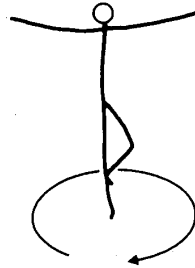
まわる



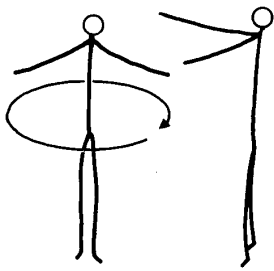
2人でぐるぐるまわる



1人がこまで1人がひもをひく



片足を軸にしてまわる

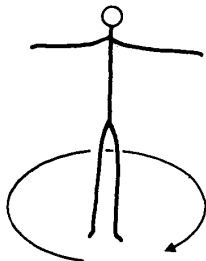


上から下へひもをまわし
こまはまわる

「ぐるぐるまわせ
こまませ」と
歌を口ずさみ
ながらまわす



小さなこま



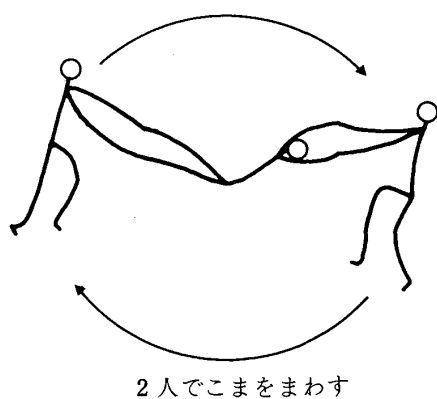
まわる



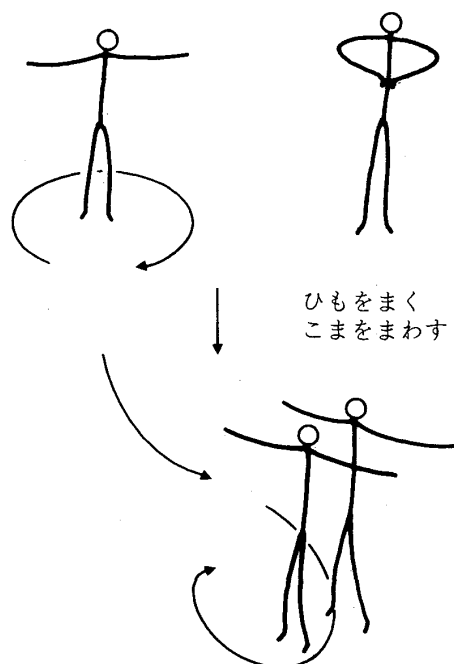
まわりながらだんだん
ゆっくりになり小さくなる



止る



1人でこまになり高い姿勢低い姿勢で回ったり回転の速度を工夫したり空間も稼動しながら30分余りもやっていたひもをまいたり、こまがだんだん止まるところ等良く工夫していた



こまはまわりながらひもに近ずき
2人で綱渡りをする

考察

1. 感激

邦正美は⁽²⁾「芸術家は自分の感激を表現する。やむにやまれない衝動にかられて表現するものである。」と述べているが、幼児の創作舞踊もこの感激が良い表現を造り出すための重要な条件となる。

感激をさせるには、第1に、良い題材を選ぶことである。ここでとりあげた10例と、3歳児でとりあげた10例^⑨を比較すると、同じ題材はかたつむり、ロボット、プール、こまの4例であり、残りの6例は、とんぼ、おみこし、時計、ショベルカー、花火、かまきりである。前者の4例は、直接幼児が体験し、そのものになりきって表現する感情的な捉え方が中心となり、後者は形態やリズムを捉え、感覚的な表現といえる。

4歳児の題材は、色々な事に興味を示したり、運動能力も発達したりし、行動範囲の広がりにとともに、題材を選ぶ範囲も広がったといえる。特に、直接体験ができるものから、感覚的な捉え方のできる題材が多くなっている。

第2には、感激をさらにふくらませる導入の工夫である。

実践1、5、9は小動物を園で飼育し、エサをやったり、手に乗せて遊んだりし、親しみ、充分観察している。

実践2, ロボット, 8, 花火, 10, こまは実際に家から持ってきて皆で十分に遊んだ。

実践3, プールは, この時期は毎日プールに入り, 幼児の大好きな遊びである。

実践4, おみこしは, 実際にかつぐことのできるものをグループで作り, おまつりごっこを楽しんだ。

実践6, 時計は, 写真の通り, 色々な種類の時計を持ちより, 観察し, 工作を作った。

実践7, ショベルカーは, 園の近くの工事現場へ皆で何度も行き, 実際に動いているところを見てきた。

そしてさらに, 本や図鑑を見たり, 絵に描いたり, 粘土で作ったりして, 色々に交差させたり, 組み合わせたりし角度をかえながら工夫し, 幼児の感激をふくらませる指導がなされている。

4歳児は質問期といわれるほど「なぜ?, どうして?」をくり返し質問する。これは知識を求めようとするためで, 理論的に捉えようとする現われだといえる。

実践1, かたつむりを3歳児と比較^㉔すると, 4歳児が導入で言葉で表現したものは, 3歳児より細部に渡り良く観察され, しかも, 舞踊表現につながる動きのイメージを描きやすいものが多かった。

全般に表現内容を見ても, 理論的に捉えようとしている点が多いが, 特に, 実践2, ロボット, 6, 時計, 7, ショベルカー等が良く観察され表現ができている。3歳児に比較し, 題材をかなり理論的に捉えている。

従って4歳児のこの特徴からも, 3歳児に比較し, 題材に対して感激する心が大きく, 成長しているといえる。

2. 言語

導入で題材について保母が質問し, 幼児に言語で表現を求める場合, 3歳児はその場ですぐ動き出し動きで表現しようとする^㉕が, 4歳児は, きちんと言語で表現することができる。言語で表現できるということは, 頭の中に描いた運動のイメージを言葉で表出し, 話すことによりそれを確認し, さらにもう一度頭の中で運動のイメージをふくらませることができるということである。

言語の内容も, 先にあげたかたつむりの比較からも, かなり正確に保母の間に答え, その内容も豊かになっているといえる。又, グループで表現をする場合, 友達との会話がさかんになされ, 現場の保母は, この点でも, 言語の発達を認めている。

ゲゼルは「4歳児は雄弁家である。」と述べているが, 今回ここでもそれは実証された。

3. 人数

紀要第9号で, 「3歳児は友達と協力^㉖して表現することはできない。」という結論を出したが, 4歳児は, この実践により, 2人から5人の友達と協力して, 題材を表現することができた。実践1・3・5・9・10は2人, 実践2・4は3人, 実践6では5人で表現されている。

これらの表現には、始めから保母が意図して人数を決めた場合と、表現しているうちに自然と友達と組んで表現した場合の2通りがあった。前者は、実践2・ロボット、4・おみこし、6・時計、7・ショベルカーで後者は、実践1・かたつむり、3・プール、5・とんぼ、9・かまきり、10・こま、であった。

友達と協力して表現することが可能となり、人では表現しきれなかった表現の細部まで捉えることができたり、又、自分では気がつかなかった点を友達から発見したりして、表現が質的に向上し、創造性豊かなものとなった。幼児は、いい作品を創ろうと、互いに意見を出し合い、協力し合う中で自然と、協調性や社会性を学び、他者を認めながら、創造性が育っていくのである。

4. リズム感、空間形成能力

舞踊の生命は、リズムと空間にあると言われているが、4歳児は、この点でも、3歳児に比較し、かなり発達しているといえる。

実践2・ロボット、6・時計、7・ショベルカー、10・こまは特に、リズムと空間の捉え方がすぐれている。その中でも実践7、ショベルカーのツメのリズムの捉え方には工夫が見られる。

3歳児ですでにフレーズ感覚のある例を少数ではあったが前回の紀要で実証された。4歳児では、実践7、ロボットで見られるように④から⑭まで、11人が実証し、これは組の約70%にあたる。

空間に対しても、工夫して表現していることが実践2、7、10から言え、空間を形成する能力もかなり育っているといえる。

4歳児が題材から、複雑なリズムを創造し、空間を工夫できるということは、それらを表現できる運動能力があるということだとも言える。

5. 表情

3歳児は題材の中に入りこみ、そのものになって、楽しそうに表現しているのが多かったが、さらに4歳児は、実践2、ロボットでは、表情や体を硬くし表現したり、実践3、プール、4、おみこし等は楽しそうに、又9、かまきりでは友達が泣き出すほどに表情豊かで表現がリアルであった。

6. 観賞

3歳児では観賞をしているのは2例だけであったが、4歳児では10例のすべてが観賞の時間を設け、互いの表現を見合っている。4歳児は、自分の動きを覚えていて再びそれを表現することができるが、時には、皆で一斉に表現していた時より、発表する場の方が良い表現の場合がある。これは、4歳児の想像が豊かで、その場で新たな創造が閃き、動きを発展させたり、つけ加えたりできる即興能力が育っているといえる。

観ている幼児は、「何がいい表現で、誰れが良かった」等、観賞能力は、保母や私とほとんど変わらない。それは、幼児の発言や、観賞後の拍手でも解かる。

7. 時間

3歳児の表現時間は、長くて20分の例が1例あったが、4歳児では実践2, 6, 7, 10は、30分余り続いていた。その内容は、1人で表現したり、グループでの表現であるが、題材を色々な角度から何度も創造を試み、工夫している。

8. 運動会への発展

実践2, 3, 4, 5, 6, 7, 8は、さらに動きを創作し加え、運動会へ発展させ、発表をした。

おわりに

以上の実践を通して、4歳児の創作舞踊は、3歳児と比較し、著しい飛躍がみられた。

前文の4歳児の舞踊的発達段階に照すと、まず、創造力の発達は、考察1の通り、題材を色々な角度から観察し、それを考察2の言語で表現している内容から、創造力が豊かに育っていると証明される。又、運動能力の発達は、考察1の感激を、考察4のリズムや空間の創作へと導き、それらの内容は複雑なリズムを捉えているし、空間の発展も工夫されている。これらを身体運動として表現できるということは、自分の想像を、現実の動きに表現できる体の成長と、運動能力が発達したからだと言える。又、群としての舞踊ができるようになるという点においては、考察3の人数で示した通り、友達と協力してひとつの題材を創りあげることができた、ということは、すなわち、群としての舞踊ができたといえる。

これらを通し、前文の舞踊カリキュラムの4歳児の舞踊的発達段階は実証された。

ゲゼルは、⁽³⁾「4歳児は生々とした心を持っている」と述べ、想像力、運動器官の発達、言語の発達、対人関係や社会的伝達の発達をあげているが、今回の実践を通して、これらのすべての項目が、創作舞踊においても実証された。

現場の保母は、「4歳児の指導はやりにくい。」と言うが、どうであろうか。3歳児は従順で保母の言うことを素直に聞くし、5歳児は、年長として一応の生活ができ、保母の指示通りに行動ができる。その3歳児と5歳児の谷間に4歳児がいる。4歳児はいつも何かの衝動にかられるように想像力を働かせ、次々と試みていく、というように流動的であるため一貫性がないように思われる。いつも何かを次々と夢みて、実行し、又すぐ次の夢をやっているのである。舞踊創作に大切なことは想像力の飛躍である。すなわち夢みることは舞踊創作のもとになるのである。

4歳児は新しい創造をめざして、自分の夢をためし、それをくり返しながら飛躍するのであ

る。

今後の課題は、今回の実践から得た4歳児の創作舞踊の考察の項目の中から、題材、人数、リズム、空間形成、観賞の5項目に焦点をしぼり、実践し研究を進めるものである。

引用文献

- (1) 舞踊カリキュラム 日本教育舞踊研究所著作、発行 1974年 P 1 右段17～24行
- (2) 舞踊創作と舞踊演出 邦正美 論創社 1986年 P53 6行
- (3) 乳幼児の発達と指導 A. ゲゼル著 依田新、岡宏子訳 家政教育社
昭和42年初版 P 299 3行

注

- ①「群としての運動ができるようになる。」とあるのは引用文献には「集団で遊ぶことを特に好むようになる。」とある。これは1983年、日本教育舞踊研究所で補正を行い新めた。
- ②①と同様「要易である」は「困難なことではない。」から新めた。
- ③即興、本学紀要第9号 P 2, 14～3, 11行 参照
- ④本学紀要第9号 幼児と創作舞踊の実践
—3歳児の可能性— 飯田正江を参照
- ⑤ ④と同様 P 3
- ⑥ ④と同様 P 14
- ⑦ ④と同様 P 16

参考文献

- ・児童心理学講座 7, 社会的発達 金子書房, 昭和 44年
- ・モンテッソリーの教育 0歳～6歳まで
M. モンテッソリー著 吉本二郎, 林信二郎訳 あすなろ書房 昭和55年
- ・子どもの発達と教育 4 幼年期発達段階と教育 1 岩波書店 1979年